

薬の現象学

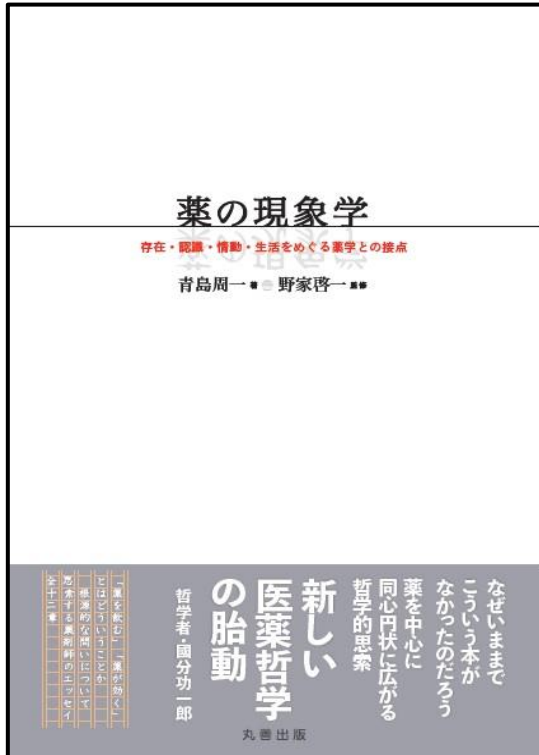
存在・認識・情動・生活をめぐる薬学との接点

青島 周一 (医療法人社団徳仁会中野病院 薬剤師) 著

野家 啓一 (東北大学 名誉教授) 監修

ISBN:978-4-621-30690-1 A5判 並製 208ページ 本体価格 3,000円

薬剤師が説く、「薬との付き合い方」とは。



「薬を飲む」や「薬が効く」とはどういうことなのか。

エビデンスに基づく科学的合理性を踏まえつつ、薬に関する非科学的・非合理的な側面を言語化。

SNSや医療情報サイトなどで情報発信や啓蒙活動を行っている著者による、『正しい』薬との付き合い方を解説した医学読み物。

病棟/薬局薬剤師のほか、実際に患者に対して薬剤処方を行う医師にもおすすめ。

目次

1部 存在——夜空には何が「ある」のか

薬に効果が「ある」といったときの「ある」について/薬剤効果の感覚質/統計世界と生活世界

2部 認識——解釈に対する眼差し、あるいは正当性の論理

情報が表しているもの/メディアとバイアスとスピン/トンデモ医療と正統医療の線引き問題

3部 情動——臨床をめぐる中動態

薬を飲まない・飲めない問題/生活の中の依存と医療/ポリファーマシーを問題にすることの問題

4部 生活——医療と暮らしのはざままで

日常と非日常をめぐる変化の中で/淡い西陽が差し込む午後の病棟で/「健康」に対する概念的諸連関の展開

| 注文書 丸善出版発行 | 条件:新刊委託 | 指定配本数 | 貴店番線印 |
|--|---------|-------|-------|
| 薬の現象学 存在・認識・情動・生活をめぐる薬学との接点 青島 周一 著 / 野家 啓一 監修 A5判 ・ 並製 ・ 208ページ ・ 本体価格 3,000円 ISBN:978-4-621-30690-1 指定配本締切 1月17日 2022年1月刊行予定 | | 冊 | |